

方剂名	効能	生薬組成	
		主治および証	病機 方意
書籍			
治風剂 平熄内風剂 9			
あきょうけいしおうとう 阿膠 鶏子 黄湯	滋陰養血・潜陽熄風	阿膠 6g・生白芍 9g・石決明 15g・釣藤鈎 6g・生地黄 12g・炙甘草 2g・生牡蠣 12g・絡石藤 9g・茯神木 12g・鶏子黄 2枚 水煎し服用する。	
通俗傷寒論	<p><主治> 熱傷陰血、血虚生風 筋肉のひきつり、手足の蠕動、頭のふらつき、めまい感、舌質は絳、少苔、脈は細数などを呈す。</p> <p><病機> 温熱病で熱邪が長期にわたって陰血を耗損し、虚風内動を生じた状態である。 陰血が不足して筋脈が養えないために筋脈が拘攣し、筋肉のひきつり、手足の蠕動などが生じる。陰血不足で肝陽が上昇し、頭のふらつき、めまい感が現われる。この様な、陰血虚損による虚風内動の症候を「血虚生風」という。舌質が絳、舌苔が少、脈が細数は、熱傷陰血を表わす。</p> <p><方意> 滋陰養血・熄風を主とし、潜陽通絡を配合する。 滋陰養血・熄風の阿膠・鶏子黄が主薬である。生地黄・白芍・甘草は、酸甘化陰により陰血を滋補し、柔肝に働いて主薬を補佐する。熄風の釣藤鈎および潜陽熄風の石決明・牡蠣、さらに平肝安神の茯神木は、標の風動と陽亢を抑制する。舒筋通絡の絡石藤、および柔肝舒筋の白芍・甘草により、筋脈拘攣を解除する。</p> <p><参考> 本方（阿膠鶏子黄湯）は、大定風珠と同じく熱傷陰血、虚風内動に対する方剂であるが、大定風珠は滋陰填精に重点があって病状が重篤なものに、本方（阿膠鶏子黄湯）は滋陰補血が主体でやや軽症に適する。</p>		